

令和元年度第2回 青森市障がい者自立支援協議会 議事要旨

日時 令和元年8月8日（木）13:00～15:00

場所 青森市総合福祉センター2階 集会室

出席者 (委員) 石田会長、西村委員、蠣崎委員、佐藤委員、津川委員、工藤(縁)委員、今委員、今村委員、小笠原委員、岡田委員、野呂委員、木村委員、田中委員、藤川委員、谷川委員、狭間委員、工藤(昭)委員、長谷川委員 (計18名)

(事務局) 障がい者支援課 金澤課長、佐々木主幹、佐藤主幹、高木主幹、笹原主査、高坂主査、長澤主事

1 開会

2 報告事項

○各分会からの報告事項について

精神障がい者の地域活動支援部会 <委員が「精神障がい者の地域生活支援部会協議等経過報告書」に基づき説明>

就労支援部会 <委員が「就労支援部会協議等経過報告書」に基づき説明>

3 各分会での話し合い及び各分会からの報告

(1) 各分会からの報告

<各分会での協議後、協議内容を部会リーダー等から報告>

(委員)「精神障害者の地域生活支援部会」では7月の末に当事者の方と支援機関の方が集まって話してもらったことをベースにピアサポーターについて、サポートをしてみたい人とサポーターを受け入れてくれる事業所のマッチングについて、地域活動支援センターを中心にマッチングシステムを作れないか相談支援事業所が集まる連絡会で聞いてみることとなった。また、当事者の交流の場を作っていくにあたって、地域活動支援センターに協力を得られないか、確認していくという話になった。

青森市でやるピアサポーター養成講座もあるので、その際に集まった方に話を聞く機会を作れるか、今後また検討していきたいなという話をした。

(委員)「みんなの未来部会」では、引き続き障害の理解を深める活動をしていきたい。交通機関において、バスやタクシーを利用しているが、時間や手間がかかってしまうときに、運転手さんや周りの市民の方から理解を得られない状況がある。そういった方々の理解を深めたいので、市のほうからタクシー協会や市営バスさんに講習会実施のニーズ調査をし、どういった講習会があったらわかってもらえるのか、今年度調査できたらいいなと話合った。

防災に関する取り組みについて、それぞれの団体のリーダーさんで、話し合いをしていただく機会をもっていた。谷川委員から相談員の方と年2回防災について、

話をすれば、防災に関する意識が高まるのではないかという意見があった。本年度相談支援専門員やケアマネージャーを含めて、部会の中でお互いにこういったことをしてもらいたいなど話し合いをしてもらえばいいと考えている。

(委員)「就労支援部会」では、就労支援ガイドブックの制作について協議をした。就労支援ガイドブックを使っていただく対象者は学校の先生や相談支援専門員の方に活用いただけるような内容にしようということが話された。現場の話だと、保護者の方がこういった方向で進めたいというときに、生徒と違う方向性で話す保護者もいる。学校の先生は教育分野が専門なので、なかなか福祉の分野の説明を自信をもってするのが難しいということがあるので、指針となるようなガイドブックがあればいいという意見があげられた。

制作にあたっては、印刷物となり費用がかかるので、事務局のほうに印刷の予算はあるかを聞いたところ、なかなか難しいとのことだったが、委員の方から広告や協賛を集めて形になるように工夫していけばいいという意見もあげられた。

使っていただくものについては、どのタイミングで、どの機関が関わるとか、どんな支援機関があるとか、就労支援の流れ、学校在学中からどういった流れで地域社会に出て行くのかという流れや国の方針も明確に載せたほうがいいじゃないかという意見があげられた。制作にあたっての参考資料として、各地域でいろいろなガイドブックがあるので、次回の部会でそれぞれ持ち寄って、青森市版のいいものを作っていけたらなと話し合われた。

(2) 部会に参加した委員の感想・意見

(委員) 7月31日に部会があり、大人数で集まって、こんなに集まるのは初めてなんじゃないかというくらい賑やかで、当事者が私を含め3名おり、ほのぼのとした感じでよかった。

今日話し合った中で、ピアサポーターのことで、ピアサポーターの理念と概要を作らないといけないのではないかという話があった。それと自分の希望だが、9月か11月につくしが丘のショートケアにおいて7月31日の部会にも来ていた当事者2名、サンネットの方とで交流会に行きたいと思っている。あくまでも提案なので、希望が叶うかどうかはわからないが、がんばりたい。次回の部会は10月にやる予定である。

(委員) この前、車椅子の方がバスに乗った際に発生した運転手による暴言について、委員の仰ったことが心に残った。「ハワイに行ったときは、そういう方がいても周りの方が、自然な目で見ていたので、障害の人は時間がかかるということを理解してもらわなければとことで、自分もみんなと一緒にやらないと時間がかかるから、みんなもゆっくり見守ってねというような理解も必要かなと思った。藤川さんが仰った「自分は当事者なので難しいことは、理解が出来ないので、やはり当事者と地域と行政とでトライアングルのように協力してもらえれば、自分たちも安心である。」と当事者である委員から聞くことによって、より心に響いた。

(委員) 率直な感想としては、私自身まだまだ福祉のことにに関して不勉強だと実感した。今日の話し合いの中で学校の現場での話題も取り上げていただいたが、福祉サービスのことについては、学校教育の現場では足りないということを実感した。学校は卒業すると、極端な言い方をすると「はい、さよなら」という意識もまだまだあるだろうと感じた。それだけではなく、在学中はもちろん、卒業後の支援の体制にも深く関わっていかないといけないという必要性を感じた。本日はありがとうございました。

(3) オブザーバーの方の感想

(オブザーバー) 「精神障害者の地域生活支援部会」を途中から聞かせていただいたが、皆さん熱心な話し合いをされているなど思った。先日、相談支援専門員の現任者研修があり、自立支援協議会がテーマとして取り上げられ、受講生に対して「皆さんが普段仕事をしている地域の自立支援協議会の活動内容をまとめてください」という課題があり、私は青森市の自立支援協議会の内容をまとめた。八戸は八戸、三沢是三沢、弘前は弘前と、それぞれやっている内容を共有するものだったが、自分の住んでいる町の自立支援協議会の活動内容をもう少し知りたいなと声が出ていた。今現在、私は青森市で働いているが、以前働いていた地域でも「やってるんだよなあ」という感じで活動内容がよくわからなかった。今日、部会のお話を聞かせていただいたが、就労支援の方もすごく議論しており、一生懸命な方々がいるということ、市民の方、関係者、当事者の方に広く伝わってほしいなと強く思った。

4 その他

(委員) 私ごとだが、先月の下旬に私の友人が青森市外から青森市に移り住んできたのだが、そのときに障がい者手帳の住所変更や福祉乗車証の発行の手続きの際に市役所の方には、大変お世話になって、特に障がい者支援課の方にはいろいろな面でやさしく対応してくれてとてもうれしかったと話していたので、本人に代わってお礼を言わせてほしい。障がいを持っていても決して1人ではない、周りを見れば障害を持っている人たちの味方になってくれる人がいると改めて思った瞬間だった。これからもブナの会でも参加している皆さんの声を拾っている、必要があれば自立支援協議会に持って来て、皆さんの話を聞いてブナの会にも持って帰ればなと思う。

(会長) 第1回の自立支援協議会の中で、保健大学で多世代交流カフェがありますとアナウンスをさせていただいた。無事に6月21日に開催ができた。自立支援協議会の委員の方ほか、運営スタッフとして学生が50人くらい、地域の方、当事者のご家族の方計50名くらい来てくださり、約100名の参加があった。これからも継続的に大学の場を使っているような人が交流できる機会を作っていきたい。次の企画があればアナウンスさせていただきたい。

5 閉会

—以上—